



営農経済渉外係長
飯塚 健一
〔北部地区担当〕

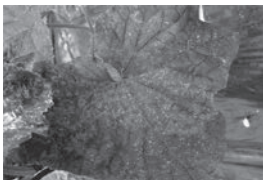
* 今月号は私が担当しました。

野菜のウイルス病

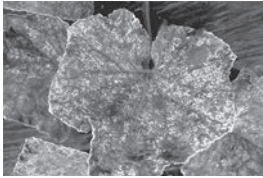
近年、作付品目と栽培方法の多様化や、連作に伴う野菜のウイルス病被害が増大しています。そのため、今号はウイルス病についてご紹介します。

1 きゅうり黄化えそ病

病原ウイルスは、メロン黄化えそウイルスです。特徴的な症状として、葉では葉脈透化・モザイク・退緑斑・えそ斑が現れます。果実では症状が見られませんが、症状が進むとモザイクを生じることがあります。



退緑斑を伴うモザイク症状



えそ斑点を伴うモザイク症状

2 トマト黄化葉巻病

発病初期は、新葉が葉縁から退緑しながら葉巻症状となり、後に葉脈間が黄化し縮葉となります。病勢が進行すると、頂部が叢生し株全体が萎縮します。なお、発病前に着果した果実は正常に発育しますが、発病後は開花しても結実しないことが多くなります。また、タバココナジラミ類の多発時には、本病によらず着色異常果も発生します。



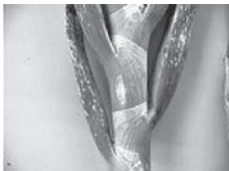
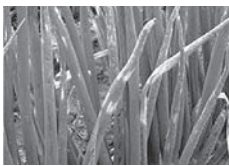
上位葉は小型化し黄化して葉緑が内側に巻込



茎頂部の黄化症状

3 ネギえそ条斑病

ネギアザミウマが媒介するウイルスによる病害です。葉身に条斑が発生し品質が低下します。一度ウイルスを持ったネギアザミウマは、一生ウイルスを伝搬しますが、卵での伝染や土壌による伝染、種子による伝染はしません。ネギ黒斑病の初期病斑と似ているので注意が必要です。



葉身に退緑斑が発生
(病害虫防除所HPより)

感染経路

全てウイルスによる病害で、きゅうりはウイルスを保有したミニキイロアザミウマが施設内に侵入し、吸汁することで被害を拡大させます。
トマトはタバココナジラミ類（シルバリーリーフコナジラミ及びタバココナジラミバイオタイプQ）によってのみ媒介されます。ネギは、ネギアザミウマによって媒介

されます。

防除対策

媒介生物によって伝染するウイルス病予防は、その媒介する生物を排除するしか方法はありません。作物体内に進入したウイルスを除去することは出来ません。発病株は速やかに抜き取り圃場外に処分し、防虫ネットや薬剤散布によってしっかりと防除しましょう。

IRACコード	農薬名	きゅうり (ミニキイロアザミウマ)	トマト (タバココナジラミ)	ネギ (ネギアザミウマ)
4A	ベストガード水溶剤	○	※2	○
5	ディアナSC	※1	※2	※3
6	アグリメック	※1	※2	※3
15	カスケード乳剤	○	※2	○
23	モベントフロアブル	※1	※2	○
28	ベネビアOD	※1	※2	※3
30	グレーシア乳剤	※1	※2	※3
UN	プレオフロアブル	※1		○
29	ウララDF		※2	○
9B	チェス顆粒水和剤		※2	

※1 アザミウマ類で登録 ※2 コナジラミ類で登録 ※3 アザミウマ類で登録

● 農薬を使用する際はラベルを十分にご確認下さい。
記載農薬は、令和2年4月7日現在の登録状況に基づいています

